

令和8年上半期 特殊詐欺被害の実態

長崎県警察本部
生活安全部
生活安全企画課

○特殊詐欺とは

被害者に電話やSNS等を通じて、対面することなく信頼させ又は関係を深めて信用させ、指定した預貯金口座への振込その他の方法により、現金等をだまし取る犯罪（現金等を脅し取る恐喝及び隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗を含む。）。

○特殊詐欺の手口（全13類型）

※□は、令和8年4月より新たに追加

	特殊詐欺													
手口	ニセ警察詐欺	オレオレ詐欺	預貯金詐欺	架空料金請求詐欺	還付金詐欺	融資保証金詐欺	金融商品詐欺	ギャンブル詐欺	交際あっせん詐欺	キャッシュカード詐欺盗	その他の特殊詐欺	SNS型投資詐欺	SNS型ロマンス詐欺	

特殊詐欺被害認知状況(1~6月)

※数値については暫定値

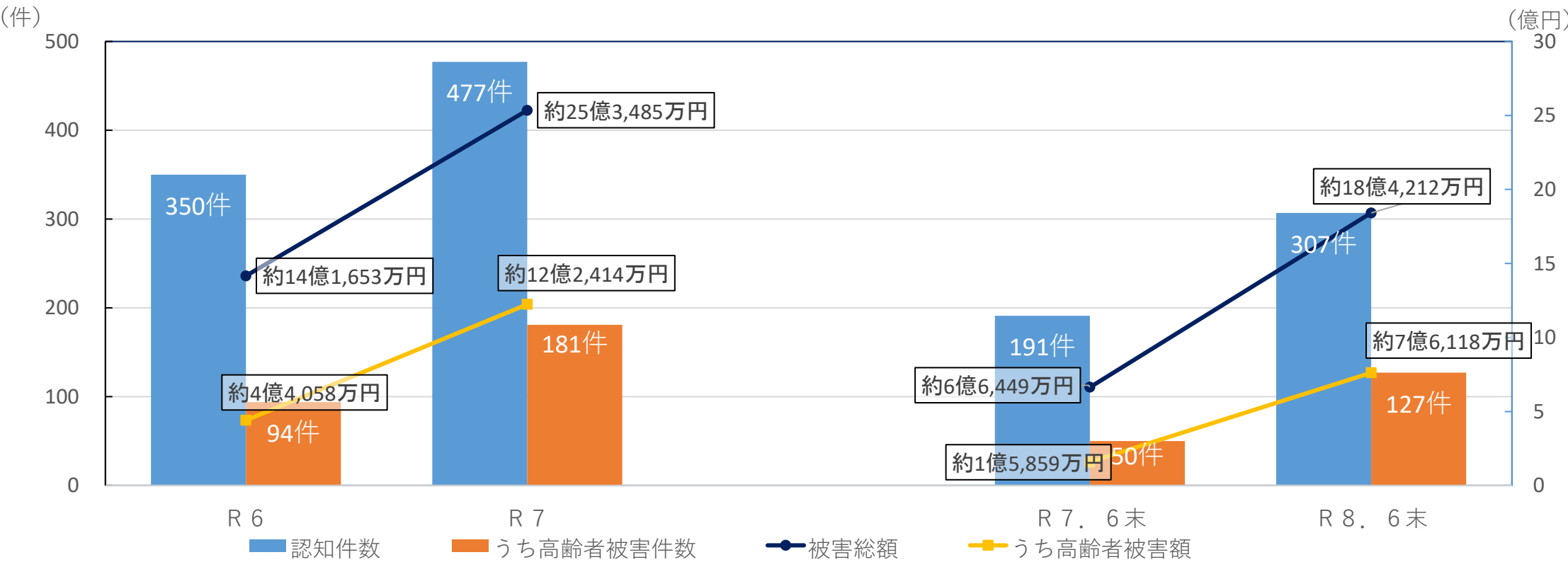
●認知件数

307件 ※被害者数は延べ人数(以下同じ)
(前年同期比 +116件)

●被害総額

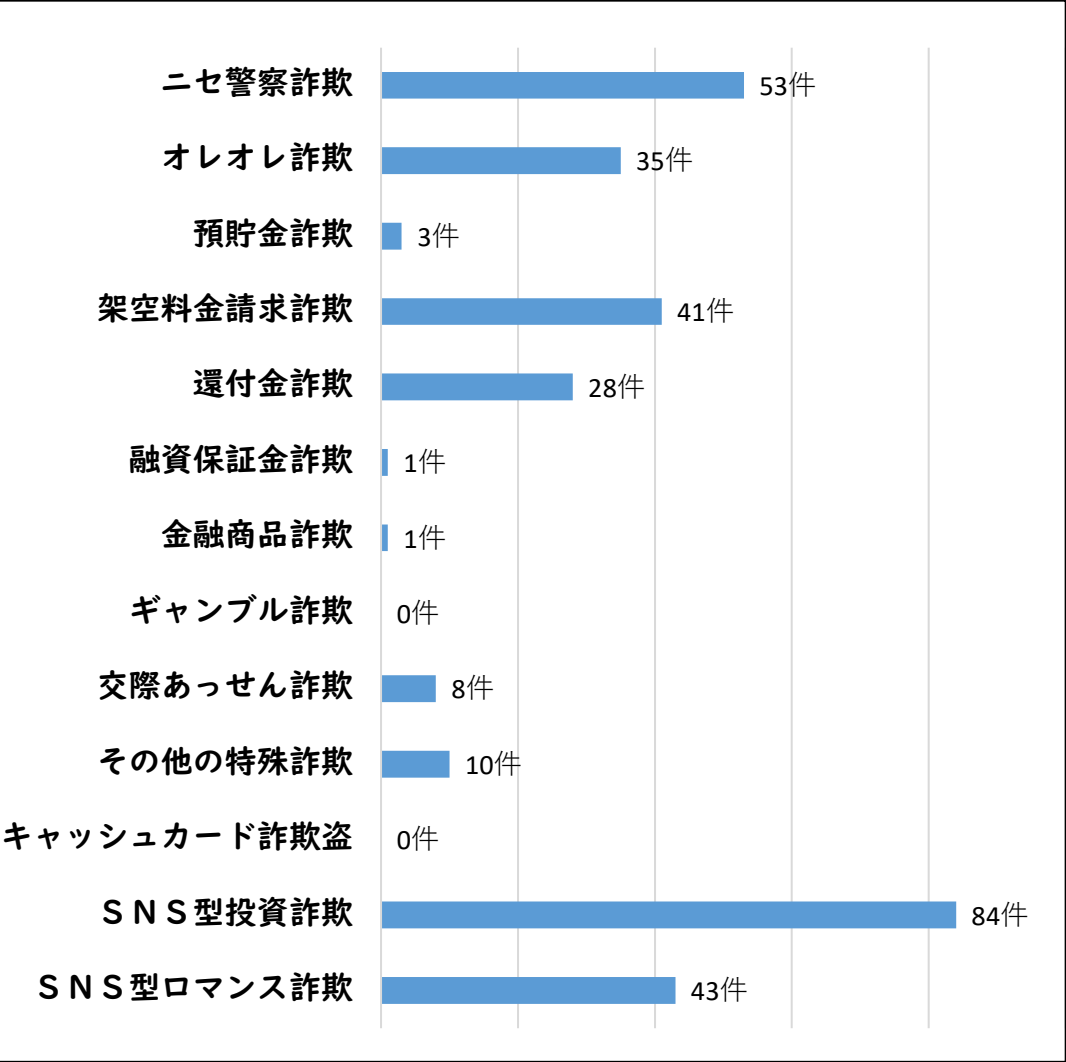
18億4,212万2,455円
(前年同期比 +11億7,762万9,672円)

※ 前年同期を上回るペースで認知件数及び被害額ともに増加している。

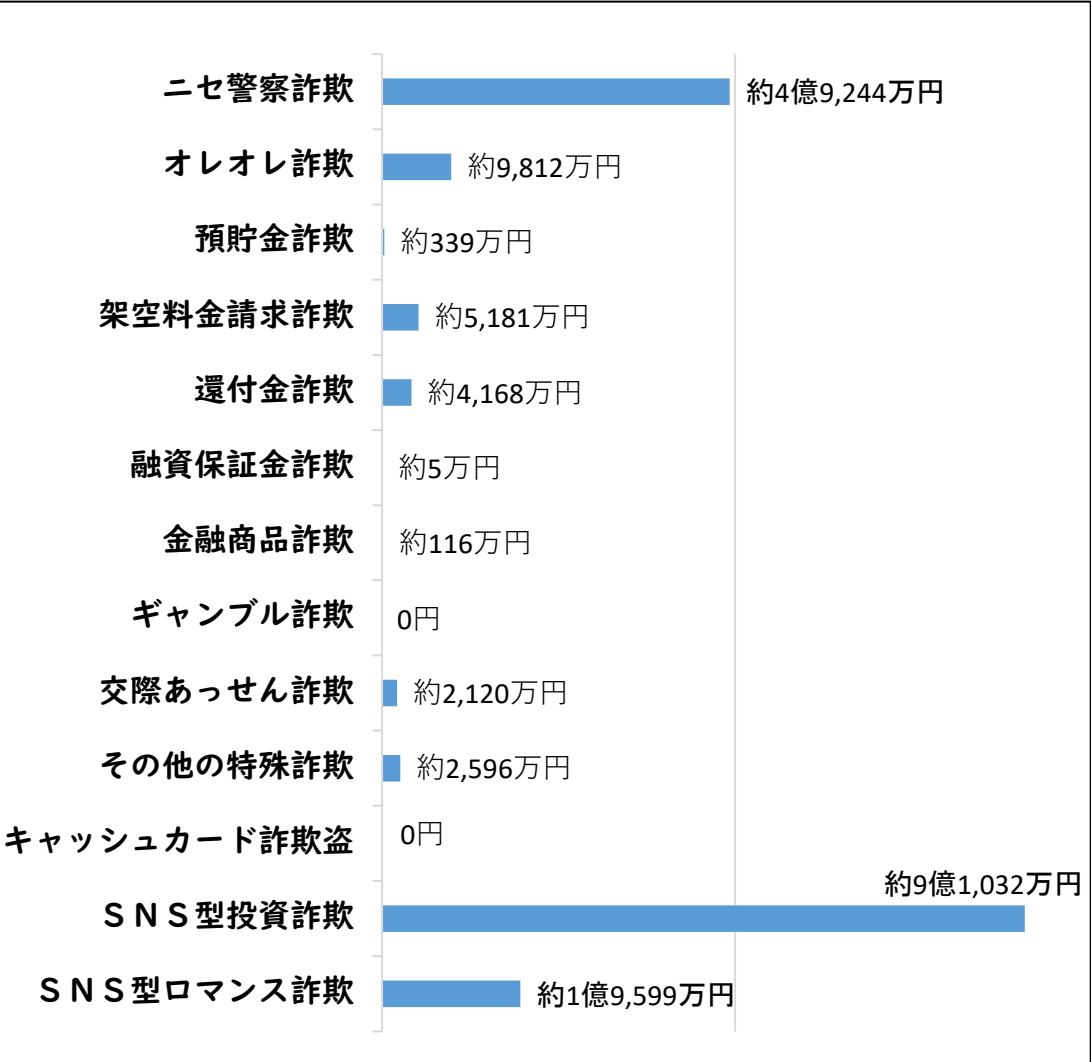


手口別内訳

【認知件数】



【被害総額】

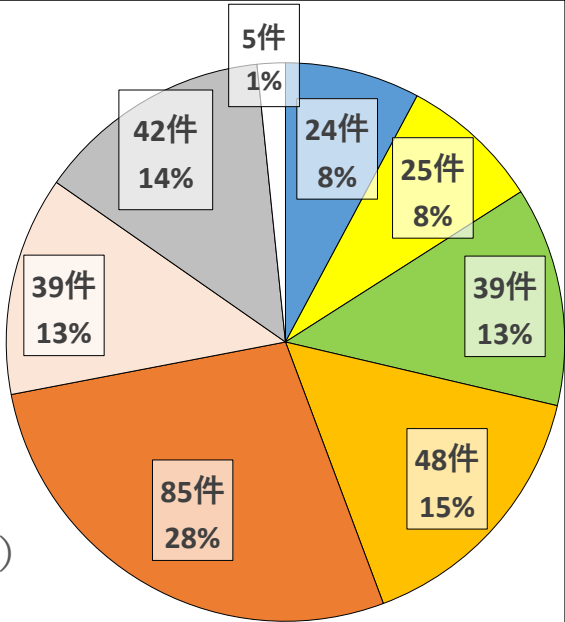


認知件数は、ニセ警察詐欺とSNS型投資詐欺が多く、この2手口で全体の約45%を占めている。
被害額も同様にニセ警察詐欺とSNS型投資詐欺によるものが多く、2手口で全体の約76%を占めている。

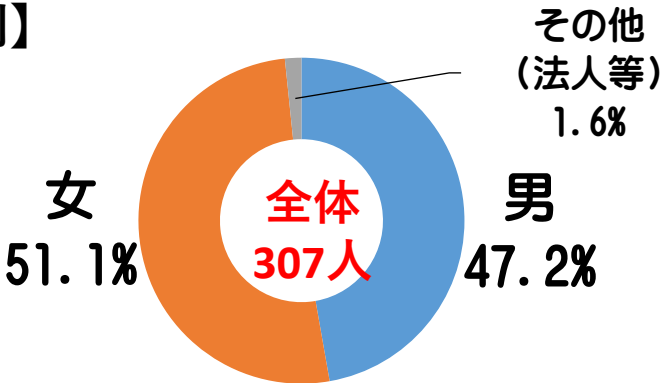
被害者内訳

【年代別】

- 10～20歳台
- 30歳台
- 40歳台
- 50歳台
- 60歳台
- 70歳台
- 80～90歳台
- その他（法人等）



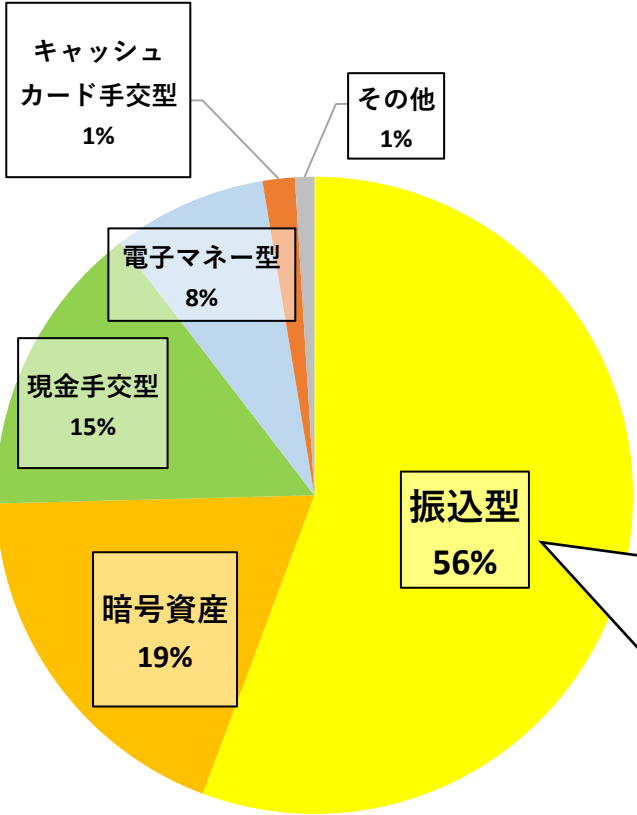
【性別】



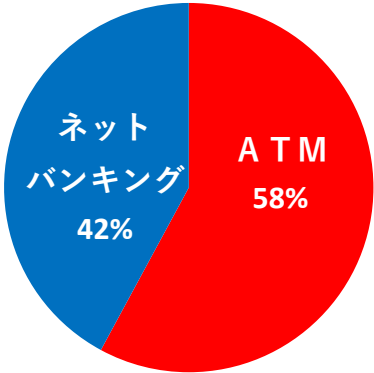
10代から90代までの幅広い年代で被害が出ており、うち高齢者（65歳以上）被害は全体の約41%（127人）である。

性別については女性がやや上回る状況である。

被害金交付形態



振込型内訳

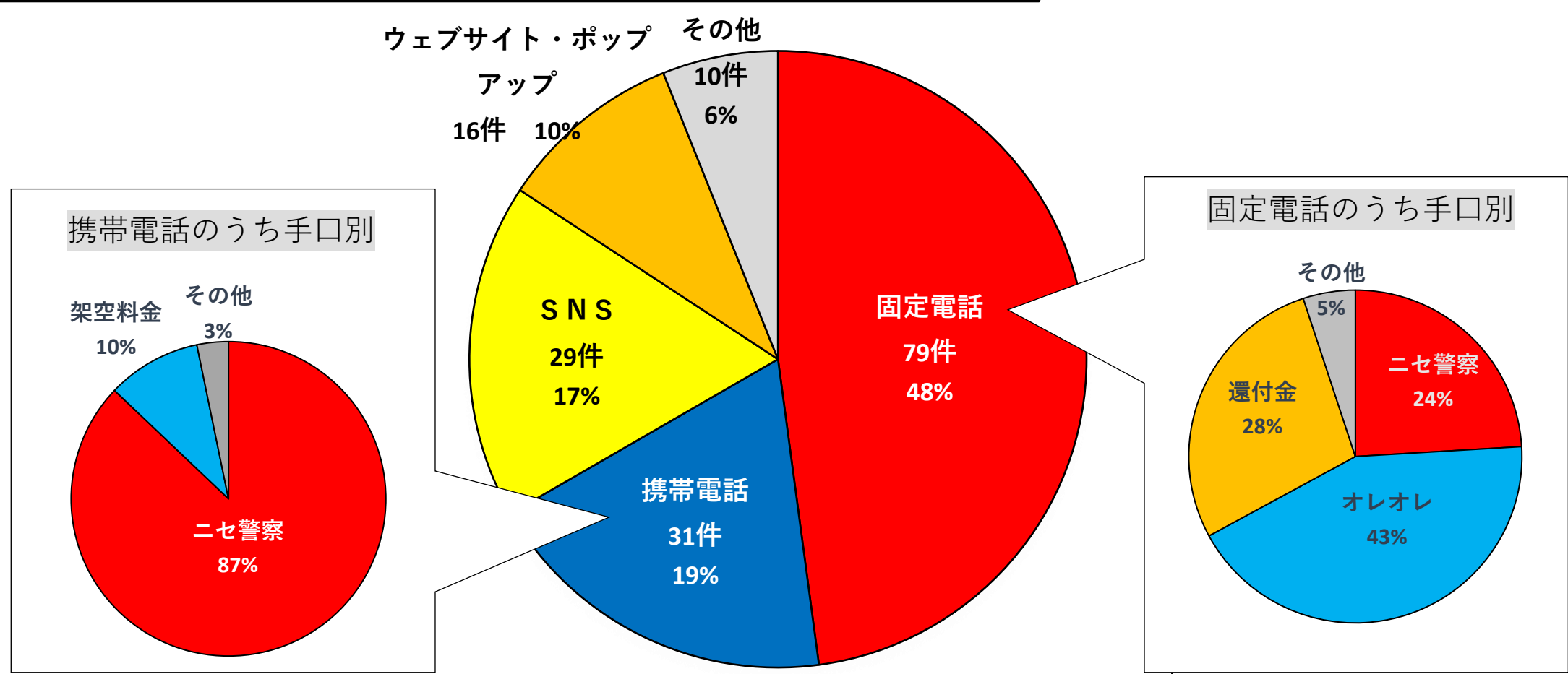


振込型が半数以上を占めており、このうちネットバンキング型は前年と比べ32件増加している。

ネットバンキングは、犯人との接触から送金までを自宅で完結させることができるため、周囲からも気付かれにくく、送金指示が容易にできることから、高額被害につながりやすい。

犯人からの初回連絡手段

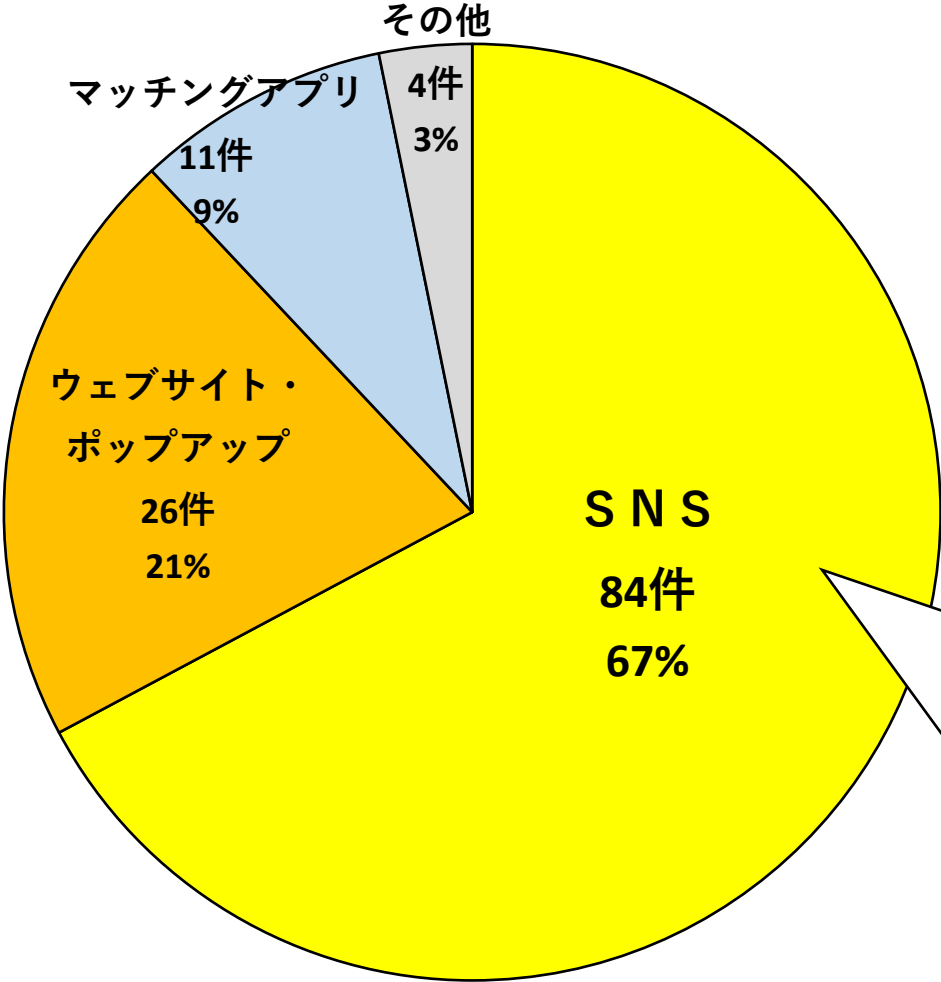
(特殊詐欺のうち、SNS型投資・ロマンス詐欺を除く)



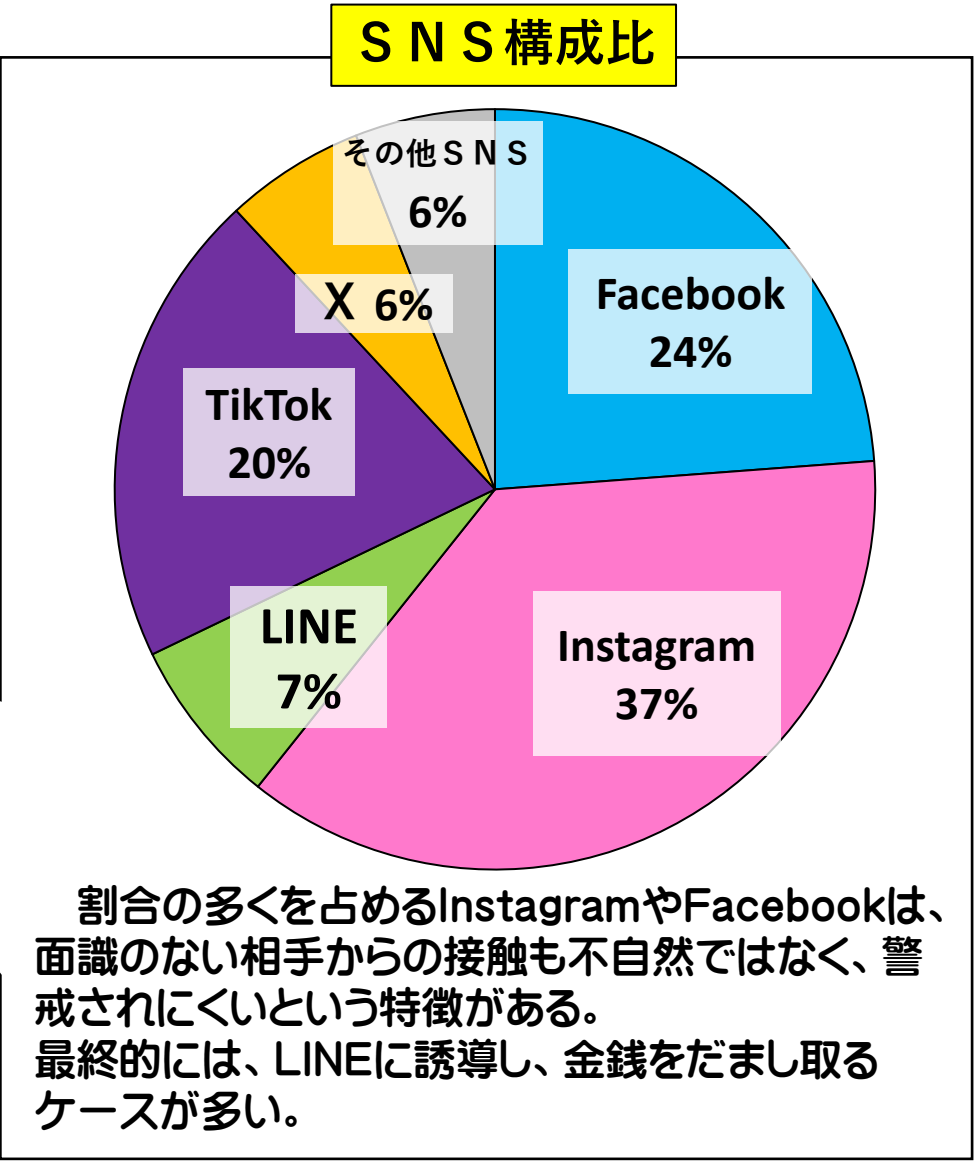
- 犯人からの初回連絡手段は、固定電話が約5割と最も多く占め、次いで、携帯電話が約2割を占めている。
- 固定電話のうち、手口別でみると二セ警察詐欺が約2割、オレオレ詐欺が約4割を占めている。
オレオレ詐欺の割合が大きいのは、令和8年1月に息子かたりのオレオレ詐欺手口が急増したことに起因する。
- 携帯電話のうち、二セ警察詐欺が約9割とほぼ全体を占めている。
- 初回連絡手段の約7割が電話によるものであることから、被害防止のためには電話機対策をとることが重要である。

犯人からの初回連絡手段

(特殊詐欺のうち、SNS型投資・ロマンス詐欺のみ)



SNSが約7割と最も多く占め、次いでウェブサイト・ポップアップが約2割を占めている。



二セ警察詐欺手口詳細

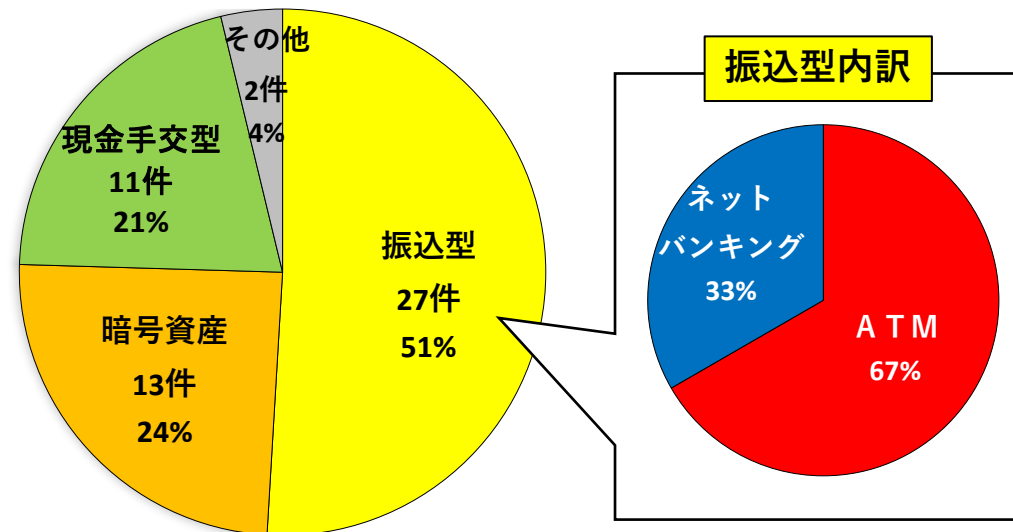
※被害額の27%を占める「二セ警察詐欺」について分析

【特徴】

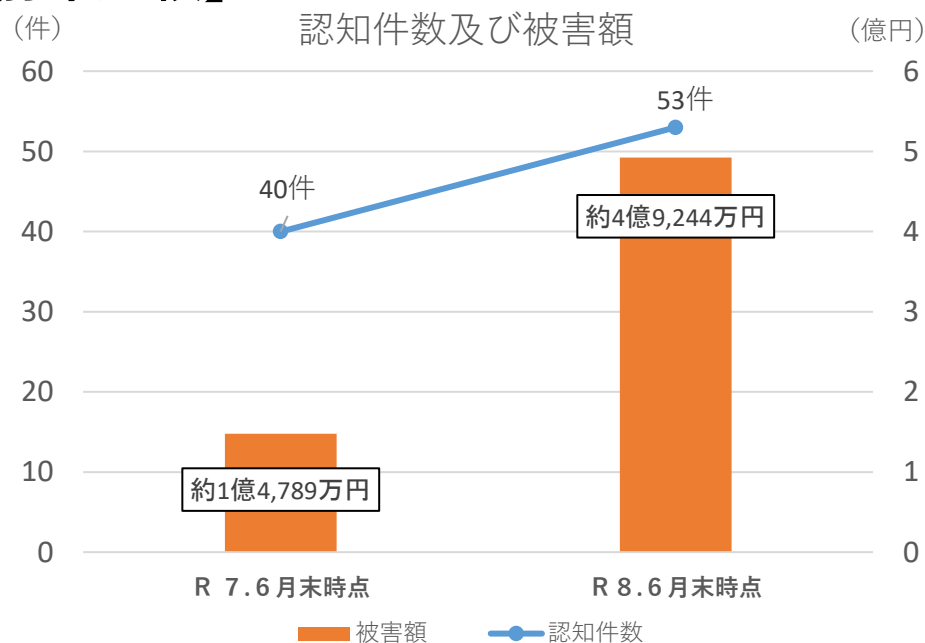
主に電話で被害者に接触し、
「犯罪に関与している疑いがある」
「口座がマネーロンダリングに使用されている」
「逮捕状が出ている」などと言って不安をあおり、
捜査名目や逮捕を免れる名目で現金をだまし取る。
SNSビデオ通話で警察手帳や制服姿を示し、
相手を信用させるといった手口が確認されている。



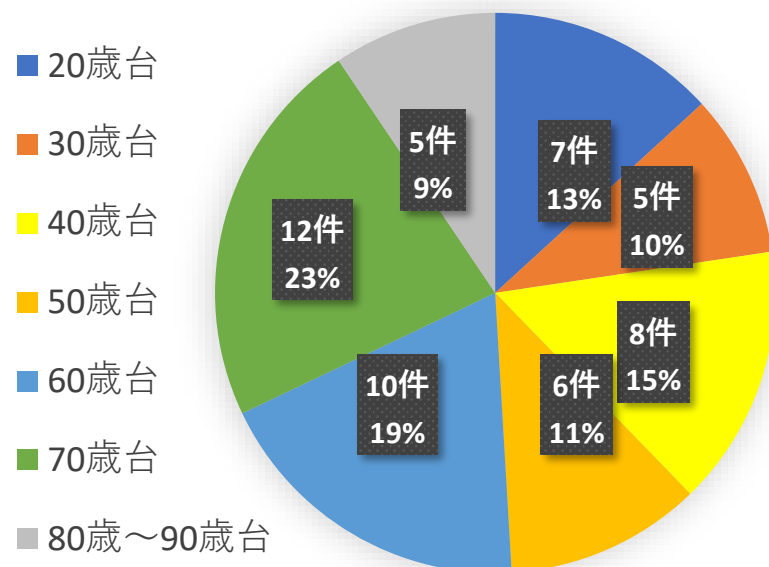
【被害金の受渡し方法】



【前年比較】



【被害者内訳（年齢別）】



高齢者の割合が多いものの、幅広い年代で被害が見られる。

SNS型投資詐欺手口詳細

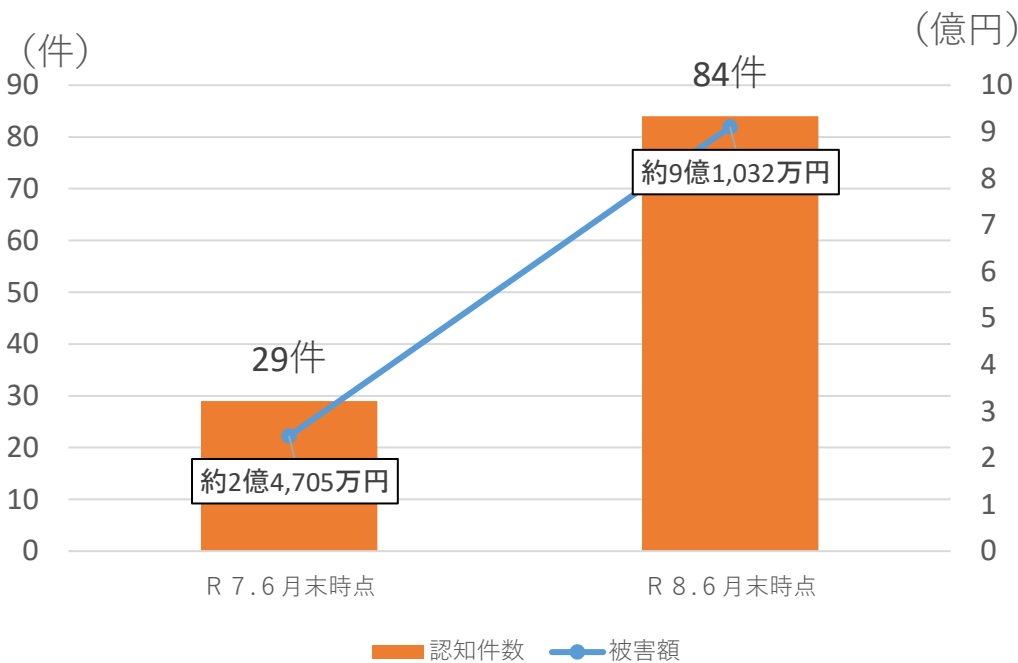
※被害総額の約半数を占める「SNS型投資詐欺」について分析

【特徴】

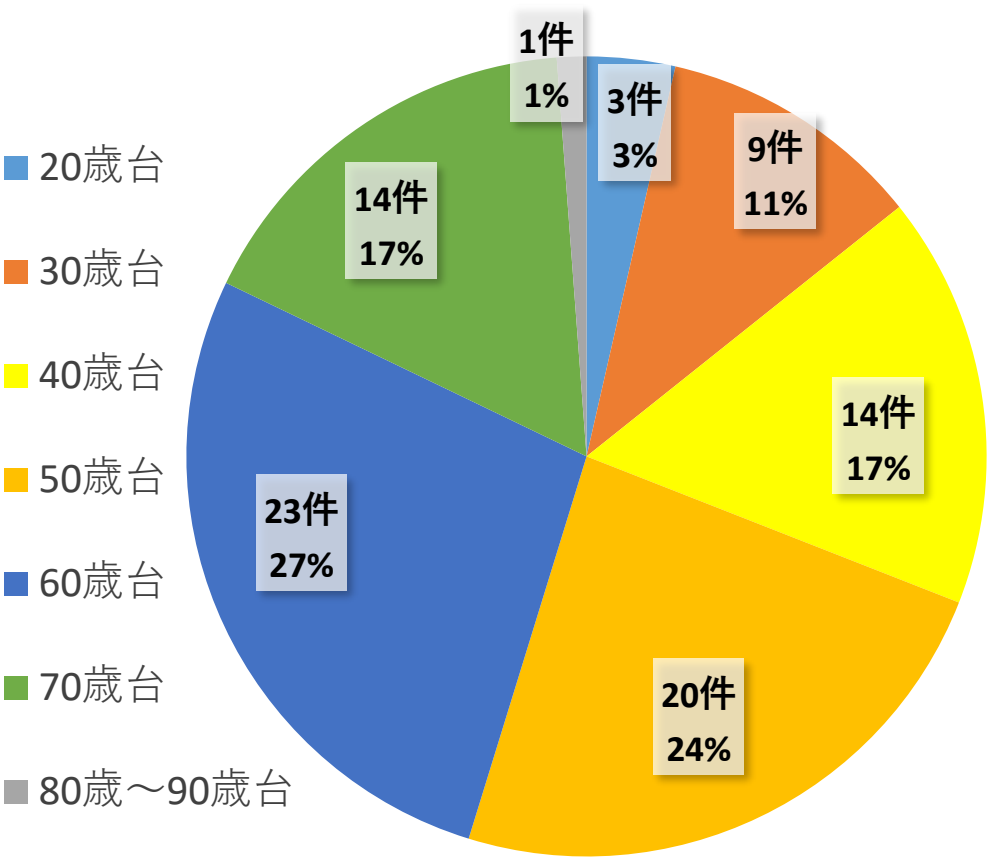
ニセの広告やメッセージで被害者の興味を引き、LINEなどの他のSNSに誘導し、「株や暗号資産に投資すれば利益が得られる」「言うとおりにすれば絶対に儲かる」などと言葉巧みに信用させ、資金や手数料の名目で金銭等を振り込ませる。

【前年比較】

前年同時期と比べ、
認知件数が**2.9倍**
被害額が**3.7倍**となっている。



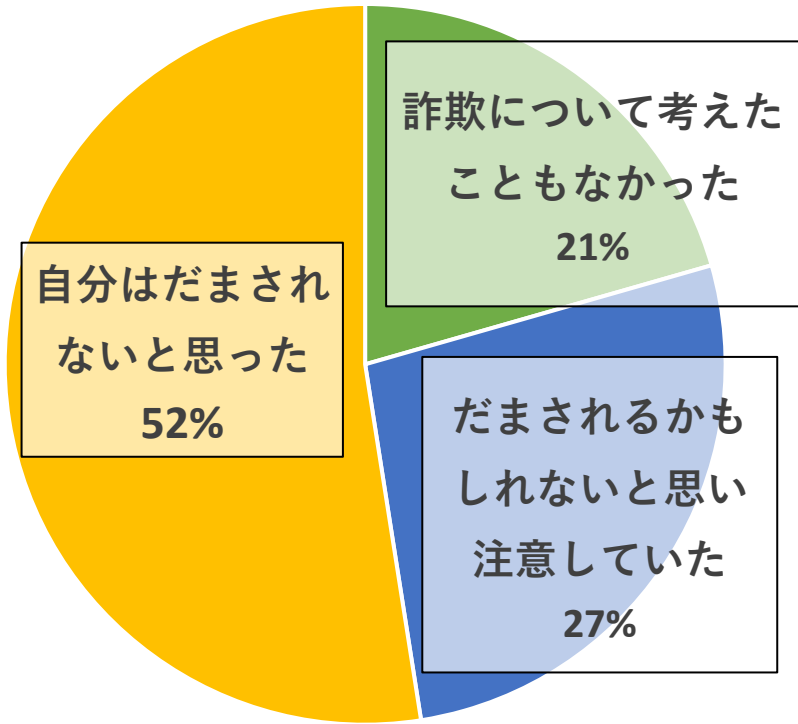
【被害者内訳 (年齢別)】



被害者アンケート結果

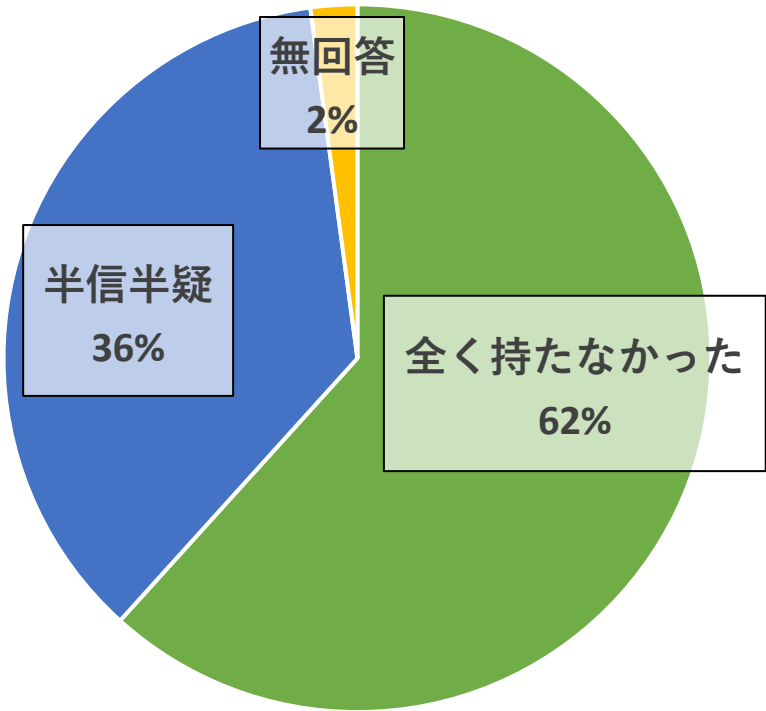
※特殊詐欺の被害者のうち、協力が得られた方にアンケートを実施

特殊詐欺への意識



約7割が「詐欺について考えたこともなかった、自分はだまされないと思った」と回答しており、詐欺について過信や他人事と捉え被害にあっていることが分かる。

犯人に対する不審度



約6割は、犯人の不審点に全く気づかなかった。

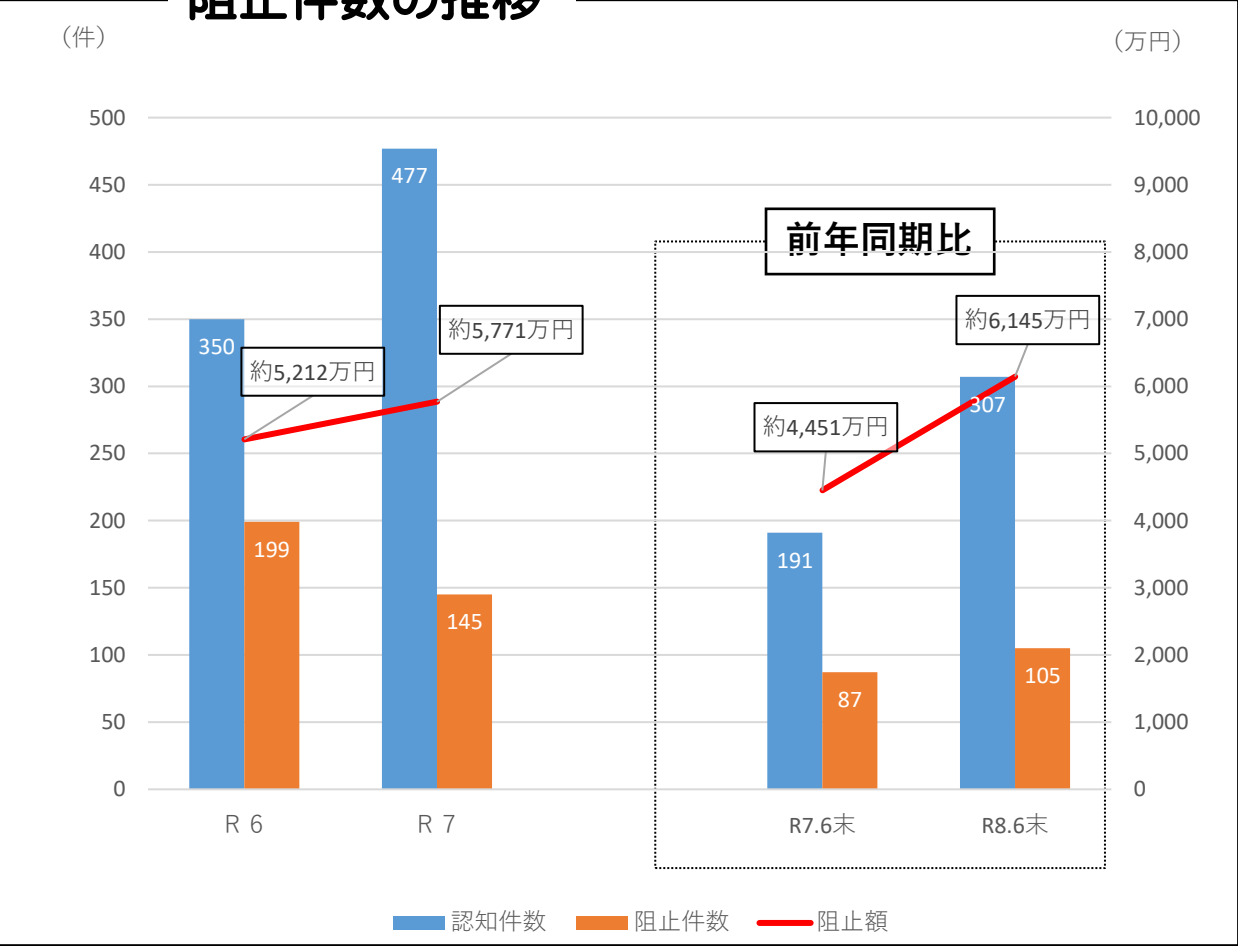
※半信半疑であったにも関わらず、だまされた理由（抜粋）

- 詐欺じゃないと言われた
- 逮捕状を見せられ、逮捕されるなどと言われてお金を支払わなければと思った
- 口調が優しく、丁寧に説明されて信用してしまった
- 返金すると言われたから

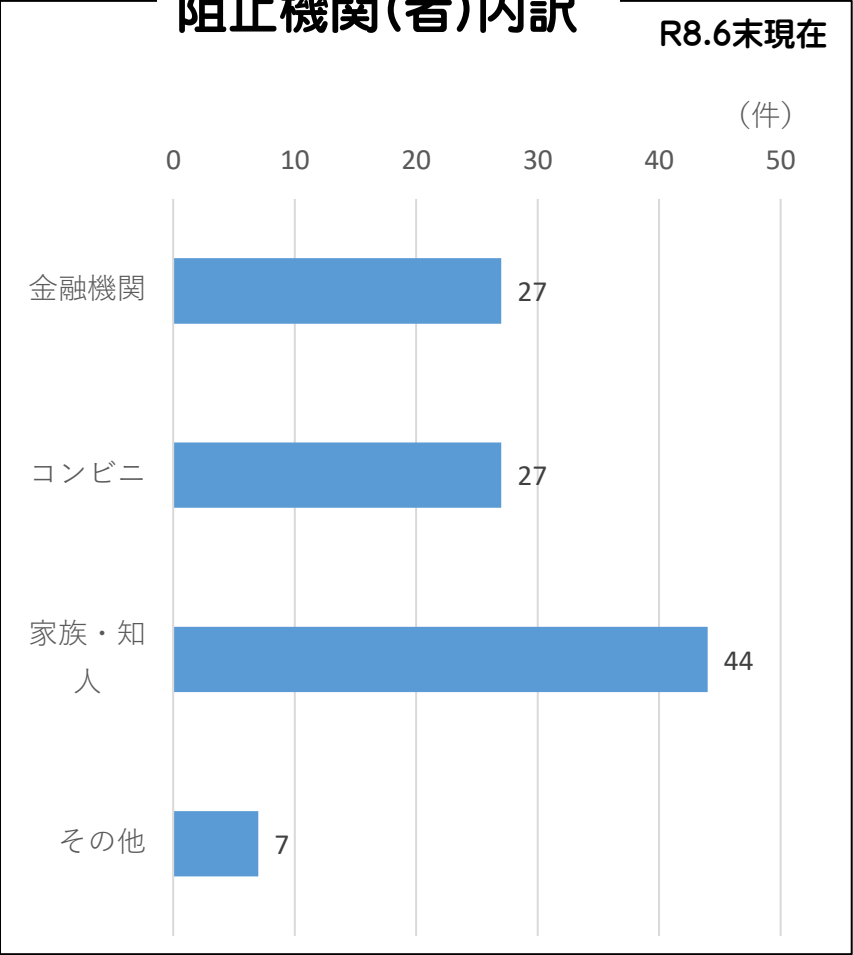
被害の阻止

阻止件数とは、金融機関やコンビニ店舗などの事業者や家族・知人などが特殊詐欺の被害を未然に防いだ件数

阻止件数の推移



阻止機関(者)内訳



上半期における阻止件数は105件であり、阻止率は25.7%である。
家族・知人における阻止が最も多く、次いで金融機関とコンビニエンスストアによる阻止が多数を占めている。